



ふくど しん 福土 審 教授

～ 心療内科学分野 ～

講義題目

脳腸関連の謎

【略 歴】

1983年 3月 東北大学医学部卒業	1997年 7月 東北大学医学部附属病院講師
1983年 6月 東北大学医学部附属病院研修医	1998年 7月 東北大学医学部附属病院助教授
1983年 7月 十和田市立中央病院	1999年 5月 東北大学大学院医学系研究科教授
1984年 9月 東北大学医学部附属病院研修医	2015年 4月 東北大学大学院医学系研究科障害科学 専攻長（併任～2017年3月）
1987年 7月 東北大学医学部附属病院助手	2024年 3月 退職
1987年 8月 米国Duke大学Research Associate （～1988年8月）	

【研究業績等の紹介】

福土審教授は、世界に先駆ける 1993 年、中枢神経と消化管の相互関連を脳波周波数成分の低振幅速波化と消化管運動の相関、すなわち脳腸関連の病態によって報告した。その妥当性は過敏性腸症候群を嚆矢とする疾患群の呼称が腸脳関連病と変化したことで証明されている。また、その病態生理をストレス負荷または corticotropin-releasing hormone (CRH) 静脈内投与による消化管運動亢進と扁桃体活性化、CRH 拮抗薬投与による改善から証明した。これらの現象をゲノム分析と動物実験により裏づけた。条件づけによる大腸運動の変化と前帯状回、前頭前野、島の賦活化を陽電子断層撮影(PET)と機能的磁気共鳴画像(fMRI)を用いて見出した。また、内臓刺激による知覚と情動を作り出す局所脳を探求し、視床、島、前帯状回、前頭前野の賦活化を得た。内臓知覚大脳誘発電位(VEP)と反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)を用いて消化管腔刺激時の脳内変化を解明した。更に、過敏性腸症候群が健常者と異なる腸内細菌を有し、腸内有機酸濃度が高く、同時に腹痛、不安、抑うつ尺度が上昇し、全般的健康感が障害されていることを発見した。摂食障害などの心身症も脳腸関連の病態からの研究成果をあげた。

同人は、継続的に科学研究費、厚生労働科学研究費、AMED 研究費など競争的研究費を獲得し、JAMA や Nature 系、Lancet 系他の高インパクト雑誌に上記成果を公刊した。以上の功績により、1987 年日本心身医学会石川記念賞、1994 年アメリカ心身医学会 Early Career Award、2004 年東北大学沢柳賞プロジェクト部門賞、2006 年文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）、2009 アメ

リカ消化器病学 Masters Award、2020 年学術ローマ財団研究者賞を受賞した。同人は腸脳相関病の国際的診断基準を決めるローマ III 委員会委員に 2003 年に就任し、ローマ IV、V にも連続して選抜された。3 連続選任は東アジア諸国から同人のみである。また、2018-2022 年に日本学術振興会学術システム研究センター医歯薬班主任研究員をつとめ、学術の発展に貢献した。更に日本心身医学会（理事長、総会会長）、日本心療内科学会（理事、大会会長）、日本神経消化器病学会（理事長、総会会長）、日本行動医学会（理事、会長）などをつとめ、医学の進歩に尽力した。

同人は、ストレスによって発症・増悪する内科疾患としての心身症を科学的に診療する方法について心身症診断治療ガイドライン、その代表的病態として過敏性腸症候群の診療ガイドラインを作成委員長として公刊した。更に新薬 5 種の医学専門家をつとめ、2019 年の介入試験論文数は臨床研究中核病院の要件割合の 19.6%を占めた。また、厚生労働省の摂食障害支援拠点病院の指定を獲得して摂食障害患者ならびにその家族からの相談に対応し、診療の効率化を促進し、地域の対応力を向上させた。心身症全般に薬物療法と認知行動療法などの心理療法を内科中心の疾患群に適用し、治療の根拠水準を上げて医療に貢献している。